

## 第 10 回 大森駿哉さん（関西学院大学）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第 10 回目は、大森駿哉さん（関西学院大学）にご執筆いただきました。

私は、生理心理学を専門としています。きっかけは学部生のときに実験実習で学んだ生理心理学の面白さに魅力を感じたことでした。「ポジティブ感情」や「没入感」に興味があったことから、これらが生理的反応に与える影響を検討しています。近年の心理学研究ではさほど珍しいテーマではありませんが、生理系の学会に行くときとまだまだ色物のように思います。

質問紙とは異なり、連続的に計測して評価できる生理指標をモノサシとして、多様な状態を評価することは非常に有用かつ応用の可能性があり、テーマも含めて多分野の方も研究に興味を持ってくださるようです。様々な分野の人と話すことは非常に楽しく、刺激的で、何より発想が膨らむ良い機会となっています。そのときのワクワクした気持ちも今、研究生活を送る上での動力の一部になっています。

これまでのコラムリレー執筆者に「関西かつ学生」がいないということで、「関西かつ学生の執筆者第 1 号」となる機会を頂いたことを嬉しく思います！日本各所、様々な立場の人が思い思いのコラムを執筆していくことで、今後もっと盛り上がるかもしれませんね。いえ、盛り上げていきましょう！

大森駿哉（Shunya OMORI）さん

【ご所属】 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻 片山研究室

【ご連絡先】 somori@kwansei.ac.jp

【その他】 同じ心理学でもなかなか他領域の方々と話す機会は多くはありません。そのきっかけとして、もしコラムを読んで興味を持ってくださった方がいらっしゃれば連絡していただけると嬉しいです。どうぞよろしく願いいたします。